

相談室だより 9月号

(No. 123号)

平成19年9月1日発行

熊取療育園
木目言炎室
大阪府泉南郡熊取町朝代東4丁目22-12
TEL: 072-453-5917
FAX: 072-452-9151
e-mail: kumatori_room@tea.ocn.ne.jp

子どものためのサービス

「子育て支援が必要だ」と言われるようになって久しいですが、これを読んでくださっているお父さんお母さん方は、必要な支援・サービスを得られているでしょうか。

「児童向けのサービスがなかなか地域にない」「自立支援法制度のサービスを使うための支給量が十分に出してもらえない」等のお声をよく耳にしますが、お話しに共感しつつも、なかなかその解決が一筋縄ではいかないことも多く、相談室としても申し訳ない思いや歯がゆさを感じています。

同時に、「私が元気なうちはサービスを使いません」「サービスを使うことで子育てをさぼっている気がして…」というお父さんお母さんのお声が気にならずにはおれません。

サービスを利用しなくてもよい、というのに越したことはなく、それならとても嬉しいことです。しかし、本当は大変な状況がありながら、頑張ってしまう、頑張りが過ぎてしまうお父さんお母さんが、意外と多いことに胸が痛む思いです。

頑張りが過ぎてしまう原因は何でしょうか？お父さんお母さんご自身が、「親としてこうあるべき」という基準を厳しく持ち過ぎているのかもしれない。または、サービスを利用

することに周囲が無理解で、利用しようとするお父さんお母さんを責めてしまうのかもしれない。

しかし、核家族化が進み、共働きの生活スタイルが増え、地域社会も希薄化していると言われる現代が、子育てしづらい社会状況であるのは事実です。だからこそサービスは必要とされてできてきたのでしょうか。ただ単に利用すればよいというものではありませんが、それぞれの子どもさんの状態、ご家庭の事情に即して、子どものために利用を考えるなら、「サービス利用＝子育て放棄」というようなことにはならないはず。

「親がしんどいから」利用するのではなく、「ストレスの高い親がリフレッシュして、子どもと穏やかに向き合えるようになるために」、「子どもが第三者との関わりを得て、より豊かな感性や社会性を身につけるために」、サービスを利用するのなら、むしろ、よりよい育ちのために有効なこととして、ご利用いただけるのではないのでしょうか。

どうか抱え込まれることのないよう、お気軽にご相談ください。



ひとりで頑張らないといけないことがいっぱいあるからこそ、ひとりぼっちになってはいけない。自分の頑張りを伝えましょう。周囲の頑張りに気づきましょう。（見学）